

JLC 第 52 回ジョーク・コンテスト






2020 年 11 月 21 日 (土) 16 : 00-17 : 00

オンライン会議方式 MC: 中嶋秀隆



	出題品と語数		出題者と 得点・順位
1		<p>In the right side of Trump's brain there is nothing left, and in his left side there is nothing right.</p> <p>(20 words)</p>	<p>土屋 政雄</p> <p>11+11=22</p> <p>第一位</p>
2	<p>At Police Station</p> <p>An elderly man: I would like to give up my driver's license.</p> <p>A policeman: How did you come here?</p> <p>A: Of course, I drove myself. (28 words)</p>		<p>大谷 秀之</p> <p>0+0=0</p>
3	<p>I found the perfect gym outfit to wear on the couch!</p> <p>(11 words)</p>		<p>今井真由美</p> <p>0+0=0</p>
4		<p>I've got two wonderful children – and two out of five isn't bad.</p> <p>(12 words)</p>	<p>佐川 光徳</p> <p>2+1=3</p>

5		<p>Husband and I went grocery shopping with masks, got home, took off masks, brought home wrong husband! Stay alert, people!</p> <p>(20 words)</p>	<p>岡田 茂富</p> <p>5+6=11</p> <p>第二位</p>
6		<p>“What makes men chase women they have no intention of marrying?” “The same urge that makes dogs chase cars they have no intention of driving.”</p> <p>(25 words)</p>	<p>豊田 一男</p> <p>5+3=8</p>
7	<p>Q: What would the White House be like for Trump if he loses the 2020 election? A: For-Biden Entry.</p> <p>(19 words)</p>		<p>棚橋 征一</p> <p>2+3=5</p>
8		<p>“What’s he like ?” “He looks like a saint.” “Oh!” “Saint Bernard.”</p> <p>(11 words)</p>	<p>岡本真弘人</p> <p>0+0=0</p>
9	<p>Losing a wife can be hard. In my case, it was almost impossible.</p> <p>(13 words)</p>		<p>相原 悦夫</p> <p>4+6=10</p> <p>第三位</p>
10		<p>My job allows working from home but I still go to office. I like the idea of surrounding myself with some company.</p> <p>(22 words)</p>	<p>村井久美子</p> <p>0+0=0</p>

<p>11</p>	<p>At the zoo, Boy “I don’t like how that gorilla’s looking at me behind that glass.” Father “This is still only the ticket office.” (25 words)</p>		<p>小池 温 3+1=4</p>
<p>12</p>		<p>Looking at the two candidates, it makes you grateful only one of them can get elected. (16 words)</p>	<p>小澤 正樹 3+3=6</p>
<p>13</p>		<p>A: Why couldn’t the Buddha vacuum clean under the sofa? B: I don’t know. A: Well, it’s because the Buddha had no attachments! (23 words)</p>	<p>坂井 孝彦 1+1=2</p>
<p>14</p>	<p>Teacher: I told you to stand at the end of the line. Pupil: I tried, but somebody was already there. (19 words)</p>		<p>舟崎 正敏 3+3=6</p>
<p>15</p>		<p>Teacher: George, George! Name two pronouns. George: Who? Me?! Teacher: Right! (11 words)</p>	<p>服部 陽一 2+1=3</p>
<p>16</p>	<p>Why do the Canadians bake the world best bread? Because they have Trudeau. (13 words)</p>		<p>長谷川真弓 4+5=9</p>

<p>17</p> <p>“Waitress! Vienna coffee, please.”</p> <p>“Pardon? Are you going to stir coffee with a sausage?”</p> <p>“Impossible! Um...I’d like an American.”</p> <p>“Oh, get out of here! This is a decent café!”</p> <p style="text-align: right;">(30 words)</p>		<p>大野 和子</p> <p style="text-align: center;">2+1=3</p>
---	--	---

MCの記

今回もオンライン形式で行いましたが、参加者はだいたい慣れてきました。ジョークの文章だけでなく、佐川さん厳選のイラストにうなずいたり、ニンマリしたり、はてな(?)と首をかしげたり…の楽しい時間でした。一読してちんぷんかんぷんであったジョークの意味が、意見交換を通じて明らかになったり、新たな発見につながったりするのは、ジョーク・コンテストの「真実の瞬間」です。できる限りの拙訳とすこし偏見を交えた、振り返りです。

1番: In the right side of Trump’s brain there is nothing left, and in his left side there is nothing right.

トランプ氏の右脳には何も残っていないし、左脳では何も正しくない。

「第一位」に輝いた、傑作ジョークです。「右」と「左」、「正しい」と「残っている」をそれぞれ対置させ、入れ替えることで、物事の核心をえぐりだしています。トランプ氏が大統領選での敗北を認めず、米国を政治的機能不全に引きずり込んでいる時期であり、完成度の高さは、舌を巻く見事さでした。参加者からは「理想のジョーク」とのコメントが聞かれました。得票は1回め、2回めとも11票で、合計22票。第29回の小池温さん以来、久々に合計20点越えを記録しました。

2番: At Police Station, an elderly man: I would like to give up my driver’s license.

A policeman: How did you come here?

The elderly man: Of course, I drove myself.

警察署で老人が「運転免許を返上したいのですが」

署員「ここまでどうやってきましたか？」

老人「もちろん、自分で車を運転してきました」

(署員「で、どうやって帰るの、あなた自身は、そして、車は…?」)

出題者が警察署で耳にした実話だそうです。

3番: I found the perfect gym outfit to wear on the couch!

スポーツジム用の完璧な衣装を見つけたわ。それを着てソファーに寝っ転がるの。

文章とイラストで、皆が納得したジョークです。

4番: I’ve got two wonderful children—and two out of five isn’t bad.

私には素晴らしい子どもが2人いる。5人中で2人というのは悪くない。

最初は「ん…」(?)と感じた人も、他の人からの「打率だよ」という説明に納得でした。

5番: Husband and I went grocery shopping with masks, got home, took off masks,

brought home wrong husband! Stay alert,
people!

夫と私はマスクを着けて買い物に行きました。帰宅して
マスクを外すと、別の夫と帰宅していました。皆さん、ご
用心!

時宜を得たジョーク。コロナ感染の広がり、マ
スクに親しむ今日、ありそうな光景に、納得する
声がしきり。1回めの投票で5票でしたが、2回
めで6票に増やしました。合計11票で「第二位」
です。

6番: “What makes men chase women they
have no intention of marrying?”

“The same urge that makes dogs chase cars
they have no intention of driving.

「なぜ、男性は結婚する気もない女性を追いかけるのか？」
「犬が運転するする気もない車を追いかけると同じ衝動
さ」

犬と男性を並べているのがミソか。コメントは少
なめでした。皆、納得したからでしょうか？

7番: Q: What would the White House be like
for Trump if he loses the 2020 election?

A: For-Biden Entry.

Q: トランプが2020年の大統領選に負けたら、ホワイトハ
ウスは彼にどんな存在になる？

A: バイデンの入居。

バイデン氏がホワイトハウスに着任 (For-Biden
entry) すると、トランプ氏には「入場禁止」
(forbidden entry) につながることを、冷静に伝
えています。

8番: “What’s he like?”

“He looks like a saint.”

“Oh!”

“Saint Bernard.”

「彼ってどんな人？」

「聖人のようだよ」

「まあ！」

「聖ベルナルド (セント・バーナード) だよ」

Saint が「聖人」と怖い犬の両方を意味するのが、
ポイントでしょうか？ イラストを見て参加者が
うなづくようすが、画面で見られました。

9番: Losing a wife can be hard. In my case,
it was almost impossible.

妻を失うのはつらいと思う。僕には、それはほぼ不可能だ。

Impossible は「いつも一緒にいたい」「離れ離れ
にはとても耐えられない」という意味か、「そう
したくてもできない」のか…人生の深淵をのぞか
せてくれるジョークです。1回めの投票で4票で
したが、2回めで6票に増やしました。合計10票
で「第三位」です。

10番: My job allows working from home
but I still go to office. I like the idea of
surrounding myself with some company.

私の仕事で在宅勤務もできるけど、私はオフィスに行く。
周りに人がいるのが好きだから。

Company は「仲間」と「会社」をかけているよ
うですね。在宅勤務が続く今日、参加者の中にも
ホッとする空気が広がりました。

11番: At the zoo. Boy “I don’t like how that
gorilla’s looking at me behind that glass.”

Father “This is still only the ticket office.”

動物園で、男の子が「あのゴリラがガラスの向こうから僕
を見ているのは、いやだな」

父「あそこは入場券売り場だよ」

こちらはゴリラと男性を並べています。男の子の
素直な (?) コメントに、ニヤリ。

12番: Looking at the two candidates, it
makes you grateful only one of them can get
elected.

2人の候補者を見ると、ありがたいと感じることがある。
それは、どちらか1人だけしか選ばれないということ。
最近の選挙の本質に光を当てているようです。

13 番: A: Why couldn't the Buddha vacuum clean under the sofa?

B: I don't know.

A: Well, it's because the Buddha had no attachments!

A: なぜブッダはソファの下を電気掃除機で掃除できなかったか？

B: わからない。

A: それはね、ブッダには接続器具/愛着がなかったからさ。

Attachment にはいくつかの意味があるようです。
イラストも興味深いです。

14 番: Teacher: I told you to stand at the end of the line.

Pupil: I tried, but somebody was already there.

先生: 列の後ろに並ぶようにいったでしょ。

生徒: そうしようとしたけど、そこにはもう誰がいるんです。

男の子の素直さが、ほほえましい光景です。

15 番: Teacher: George, George! Name two pronouns.

George: Who? Me?!

Teacher: Right!

先生「ジョージ! 代名詞を2つ挙げてごらん」

ジョージ「だれ? ぼく?」

先生「その通り」

邦訳は難しいですね?

16 番: Why do the Canadians bake the world best bread?

Because they have Trudeau.

なぜ、カナダ人は世界最高のパンを焼くのか?

トルドー/本物のパン生地のおかげさ。

一読して意味不明という反応の人が少なくなかったようです(私も)。Trudeau がカナダ首相と「本物のパン生地」(true dough) の両方を意味することを、意見交換のやり取りで教わりました。

17 番:

“Waitress! Vienna coffee, please.”

“Pardon? Are you going to stir coffee with a sausage?”

“Impossible! Um...I'd like an American.”

“Oh, get out of here! This is a decent café!”

「お嬢さん、ウイenna・コーヒーを頼みます」

「失礼ですが、ソーセージでコーヒーを混ぜるんですか?」

「まさか! うーん…、じゃあ、アメリカンを」

「出ていってください。ここは上品なカフェです」

コーヒーにホイップクリームを浮かべた、いわゆる「ウイenna・コーヒー」は、神田の喫茶店「ラドリオ」が発祥で、名称の由来となったウイennaに「ウイenna・コーヒー」はないそうです。

外国の喫茶店で日本人の男性客が「ウイenna・コーヒーを」と英語で注文し、ウエイトレスがそれを「ソーセージ」と誤解した。「それじゃあ、アメリカン・コーヒー」と客がいったら、ウエイトレスが「アメリカ女性を」といったと受け止め、「ここはそんな店ではない」と追い出した…という顛末のようです。誤解の積み重なりによる、チグハグなやり取りですが、ひょっとしたら実話かもしれません。

今回のジョーク・コンテストで「大波賞」に該当するジョークはありませんでした。

コロナの中、オンラインで開催をしてくださった事務局と参加者の皆さんにお礼を申し上げます。では、年末年始を笑い飛ばしましょう。

